

「食品に関するリスクコミュニケーション(東京)

- リスクコミュニケーションはいかに食育に貢献できるか -」の概要及びアンケート結果

1. 食品に関するリスクコミュニケーション(東京)の概要

1. 開催日時:平成18年6月5日(月)14:00~17:05
2. 開催場所:東京厚生年金会館 ロイヤルホール(東京都新宿区新宿5-3-1)
3. 主催:食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省
4. 参加者:199名(消費者、食品関連事業者、行政関係者、報道等)
 - <コーディネーター> 中村 靖彦 食品安全委員会委員
 - <パネリスト>
 - 高橋 久仁子 群馬大学教育学部教授
 - 神田 敏子 全国消費者団体連絡会事務局長
 - 鈴木 勝士 日本獣医生命科学大学獣医学部教授
 - 福士 千恵子 読売新聞東京本社生活情報部次長
 - 喜園 伸一 (株)NHKエンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー
 - <司会進行> 一色 賢司 食品安全委員会事務局次長
 - <食品安全委員会> 寺田委員長、寺尾委員、見上委員、小泉委員、本間委員、坂本委員
三牧専門委員、近藤専門委員、蒲生専門委員
 - <食品安全委員会事務局、関係省庁> 齊籐局長、吉岡勧告広報課長ほか
厚生労働省、農林水産省、内閣府食育推進室ほか

5. 議事の概要

- (1)冒頭、寺田委員長より開会挨拶。
- (2)続いて坂本委員より、「食育推進基本計画と食の安全に関するリスクコミュニケーションについて」と題して、政府が取り組む食育の概要と、食品安全委員会のリスクコミュニケーションとの関わりについて、導入講演。
- (3)高橋 久仁子群馬大学教授より、「食品の安全と情報リテラシーの向上」と題して、過剰な情報に対しては、情報を読み解く力(情報リテラシー)が必要であり、食育が重要となること、リスクコミュニケーションが成立するためには、情報の共有が必要であり、マスメディアの役割、食育、情報リテラシーの普及が不可欠であること等について、基調講演。
- (4)食品安全委員会作成のDVD、「気になるメチル水銀 妊娠中の魚の食べ方」を上映。
- (5)休憩の後、パネルディスカッション及び会場参加者との意見交換(約75分)。

主な議論は以下のとおり。

食品のリスクの情報について

- ・健康法等の一時的な情報は結局は淘汰され、消費者が筋道を理解して取り入れたものが、実際の暮らしの中で継続していくのではないか。
- ・食に関心を抱く人は、主婦に限らず、男性にもふえているが、そうでない人の関心

はどこにあるのか、わからないといった2極化がすすんでいる。情報源も行政や専門家だけでなく、多様化している。

- ・リスクを考えると、ハザードと確率の問題があまり理解されていないように感じる。消費者の中でも理解に差があるようだ。リスクを比較して説明するといいいのではないか。
- ・BSEが発生した当初、安全宣言だけでなく、マイナス情報もあわせ、今後の展望を示すべきだったのではないか。情報を受ける側もそれで訓練されていく。見る者の視点に立った情報提供が必要である。

「わかりやすい情報」について

- ・以前は、安全か危険か、黒か白かといっていたが、今は「安全はグレーなもの」であり、その中でも、より白いものを求めるようになっている。具体的な数字を出すことがわかりやすさにつながる。数字を出すことで、不安を招くかもしれないが、その数字の意味合いをきちんと話すことが重要であろう。
- ・学者の発言は、責任を伴うために、正確に伝えようとしてかえってわかりにくくなってしまいが、責任ある発言がわかりにくくてよいということはない。これはリスクコミュニケーションの重要な問題だ。テレビの健康番組が人気なのは無責任に断定的に伝えるからではないか。
- ・難しい言葉や専門用語を使わないというわかりやすさもあるが、なぜそうなるかという理屈をきちんと説明することが、わかりやすいということの基本だと思う。簡素化・簡略化することがわかりやすいことではない。

情報リテラシーの向上について

- ・番組等を制作する場合は、決して専門家の側には立たず、視聴者に受けることを目指すのでもなく、専門家と消費者の間に立つという姿勢が必要ではないか。
- ・受け手も、情報は構成されたものだという認識で、鵜呑みにせずに、ほかの角度から見てみる必要がある。こういった訓練を受け手が受けることも重要だ。しかし、BSE問題で、牛丼の最後の1杯はどの局も同じように報道した。報道してもよいが、違った角度からの取り組みもあるべきだ。
- ・1つのメディアにも、報道と解説など、多層的な仕掛けがある。それを使えば多様化する消費者ニーズにも対応できるのではないか。楽しみつつ情報を得るものもあってよい。ただ、情報教育、情報を使う力が消費者にはまだ足りないと思う。メディアに個性がないことも、課題である。

企業や地域における食育の取組について

- ・食育推進基本計画ができたが、企業側は何をやったらいいか悩んでいる。販促だけでなく、違う立場の団体や地域と連携した活動が望まれているのではないか。
- ・外食、中食がふえており、外食産業への期待は大きい。提供するメニューで食育を実践するといった取組が重要ではないか。

(6) 寺尾委員長代理より閉会挨拶。

食品に関するリスクコミュニケーション（東京）

リスクコミュニケーションはいかに食育に貢献できるか

. アンケート集計結果

開催日：2006年6月5日（月）

開催場所：東京厚生年金会館

参加者：199名 回答者：149名

回答率：75%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

性別

回答内容	件数	割合
1 男性	93	62.4%
2 女性	56	37.6%
無回答	0	0.0%
	149	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1 20歳未満	0	0.0%
2 20歳代	6	4.0%
3 30歳代	25	16.8%
4 40歳代	40	26.8%
5 50歳代	52	34.9%
6 60歳代	17	11.4%
7 70歳以上	8	5.4%
無回答	1	0.7%
	149	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1 消費者団体	12	8.1%
2 主婦・学生・無職	15	10.1%
3 生産者	0	0.0%
4 食品関連業者	57	38.3%
5 マスコミ	2	1.3%
6 行政	22	14.8%
7 食品関連研究・教育機関	12	8.1%
8 その他	28	18.8%
無回答	1	0.7%
	149	100.0%

その他FA

・食・農関係、制作会社・食の安全と安心のコンサルタント・消費者問題に関する公益法人＝内閣府の外郭団体・食品コンサルタント・損保会社・食品アドバイザー・畜産関係団体・農業団体職員・試験委託機関・外食・化学産業団体・肥料関係・著作権管理業・シンクタンク・給食会社・メディア関係・農業分析・NACS・大学職員・プロダクション経営・農水省職員・農業団体・フリーフードコーディネーター・食品関連分析機関・栄養士・コンサルタント

本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1 食品安全委員会のホームページ	61	40.9%
2 食品安全委員会からのご案内資料	26	17.4%
3 関係団体からのご案内資料	29	19.5%
4 知人からの紹介	16	10.7%
5 その他	17	11.4%
無回答	0	0.0%
	149	100.0%

その他FA

・農林水産省メールマガジン/10名・農林水産省HP/2名・内閣府からの資料・国民生活センターHPメールにて・行政HP・プレスリリース・農政事務所から連絡

本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1 食育についての情報を収集するため	77	51.7%
2 食育について興味があったから	14	9.4%
3 専門家に直接意見を言いたかったから	4	2.7%
4 業務の一環として参加する必要があったから	18	12.1%
5 政府の行うリスクコミュニケーションの取組みについて知るため	30	20.1%
6 その他	4	2.7%
無回答	2	1.3%
	149	100.0%

その他FA

・フードファディズムに興味があった・高橋先生のお話をきくため・次世代の健康を念願して！

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか

回答内容	件数	割合
1 強くそう思う	95	63.8%
2 ややそう思う	47	31.5%
3 あまりそう思わない	5	3.4%
4 全くそう思わない	1	0.7%
5 わからない	0	0.0%
無回答	1	0.7%
	149	100.0%

問2 本日の意見交換会の実施方法についてお聞きします。

意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	8	5%
2 適切だった	126	85%
3 あまり適切ではない	6	4%
4 全く適切ではない	1	1%
無回答	8	5%
	149	100%

開催方法（参加手続き・場所・所用時間）

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	16	10.7%
2 適切だった	109	73.2%
3 あまり適切ではない	16	10.7%
4 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	8	5.4%
	149	100.0%

配付資料

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	17	11.4%
2 わかりやすかった	121	81.2%
3 わかりにくかった	7	4.7%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	4	2.7%
	149	100.0%

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	43	28.9%
2 わかりやすかった	95	63.8%
3 わかりにくかった	6	4.0%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	5	3.4%
	149	100.0%

パネルディスカッション

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	15	10.1%
2 わかりやすかった	86	57.7%
3 わかりにくかった	27	18.1%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	21	14.1%
	149	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	12	8.1%
2 わかりやすかった	81	54.4%
3 わかりにくかった	23	15.4%
4 全くわからなかった	1	0.7%
無回答	32	21.5%
	149	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1 評価する	28	18.8%
2 おおむね評価する	78	52.3%
3 あまり評価しない	20	13.4%
4 全く評価しない	0	0.0%
無回答	23	15.4%
	149	100.0%

問3 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるもの。（複数回答）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	98	65.8%
2 食品安全委員会ホームページ（ http://www.fsc.go.jp ）	129	86.6%
3 食の安全ダイヤル（食品の安全性についての情報提供やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口）	74	49.7%
4 食品安全委員会メールマガジン（e-マガジン）	76	51.0%
5 食品安全モニター制度	75	50.3%
6 季刊誌『食品安全』	79	53.0%
7 食品の安全性に関する政府広報	63	42.3%
8 その他	0	0.0%
無回答	8	5.4%
	602	-

問4 食品の安全性を確保していく観点からの食育の取組としてどのようなものを希望しますか。（複数回答）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 若年層を主な対象としたセミナーや意見交換	63	42.3%
2 一般を対象としたセミナーや意見交換	70	47.0%
3 栄養士、教員等専門家を対象としたセミナーや意見交換	35	23.5%
4 高齢層を主な対象としたセミナーや意見交換	12	8.1%
5 メディア関係者を主体としたセミナーや意見交換	55	36.9%
6 食品の安全性の専門家との交流イベント	40	26.8%
7 マスメディアを用いた広報活動	61	40.9%
8 食品の安全性に関する教材の開発・作成	69	46.3%
9 その他	11	7.4%
無回答	0	0.0%
	416	-

その他FA

・食品の腐敗、汚染に関する自主検査の普及・企業の取組・セミナー等ではなく、今現在、食に興味がない人に対して興味を持つきっかけとなるようなイベント、広報活動など・教科書に入れる・生産者、消費者、各専門家の対象・解かりやすい例えと説明・学校教育現場での推進・20～40歳代を中心としたセミナーや意見交換・各自治体や団体が取り組むさいの講師の紹介、派遣等・家庭の主婦・生産者の取組

問5 食品の安全性の確保と関連して、食育として取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。（複数回答）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 食品の安全性に関する情報リテラシーについて	90	60.4%
2 食品添加物	37	24.8%
3 残留農薬	38	25.5%
4 食品中に存在する汚染物質・化学物質	33	22.1%
5 遺伝子組み換え食品	17	11.4%
6 動物用抗菌性物質（いわゆる抗生物質）	16	10.7%
7 BSE	12	8.1%
8 かび毒	12	8.1%
9 新開発食品	20	13.4%
10 いわゆる健康食品	60	40.3%
11 リスクコミュニケーション	57	38.3%
12 その他	11	7.4%
無回答	2	1.3%
	405	-

その他FA

・食中毒・食習慣とリスク・正しい食習慣の知識・農業と日本の自給率・科学教育とリンクされた食育・食文化・どれに関する知識も必要で、3つに限定する意味がわからない・食料自給率問題（国産品を食べることの意味）・食育に対する国のとりくみの基本姿勢の伝達

問6.ご意見・ご感想

個人を特定できるものは、個人名を と置き換えています。

1	メディアは発行部数や視聴率が結局は第一なので、正しい食育やリスクコミュニケーションを伝えるのは無理な様な気がする。
2	全体としてまとめが明確でなく、各人が、言いたい事を言っているだけで議論になっていない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・食育は、食の楽しさを通じて食の大切さを教えるだけでなく、もっと安全に対して消費者が何ができるかも含め、安全教育に注力すべきと思う。 ・検査による食の安全は担保出ない！と特に今回のポジティブリストに対し、生産者流通業者から声が上がっているが、1Pハンドリングやトレーサビリティだけではもっとむずかしいと判断します。検査は手間（技術）とコストが重み、現実的でないとさらわれていると思います。よって、易しい簡便迅速な自主検査（感度が規制値にいたらなくても）を国による調査と開発の支援をお願いしたい。自主検査の普及とトレーサビリティとの組合せで食の安全を確保したいものです。トレーサビリティに対し、消費者（特に子供）も参加出来ると思います。 ・高齢化に際し、高齢層（時間に余裕のある）の活用と若手（子供）とのジョイントを計る。遊休農地の活用も考えたい。
4	11に関して消費者と、専門家とのパイプ役としてNRをもっと育てるべき（今日出た程度の質問ならNRの勉強をしていれば答えられます。もっと広く活動させるべきです）。その他食品に関する資格に対してこのリスクコミュニケーションの大切さを伝えていくべき。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・会場のアクセスが都外から来るには余り良くない。東京駅周辺が望ましい。 ・開催時間は13:00~にして早く終了して頂けるとありがたいのですが...
6	<ul style="list-style-type: none"> ・食育は子供だけが対象ではないと思うが、文部科学省の役割は大きいはず。今回文科省も共催でなかったのは残念。 ・先生のお話「評価者が伝えたり情報と消費者が得た情報に異なる」とあったが、消費者が知りたい情報を食品安全委員会が提供すべきではないか。このような考え方でいいままでたっても両者のへだたりは縮まらないと思う。 ・パネルディスカッションでもりあがったがあいさつでしぼんでしまう。
7	科学的な安全と実際の安全についての認識を縮める可能性の追求を希望する。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・事前質問受付へのQ&A集も資料に同封して下さい。会場...・壇上、PPの映像下部みえない。暗い。
9	今日は専門家・事業者に対しての呼びかけに対しての参加者だったが、民間レベルでの解りやすい食育フェアが開かれると良い。国民フォーラム等の予告はされているが、それについてもやはり「一般市民」以外の方々の興味関心を持っている事業者や行政関連に集約されてしまうと思う。うちの場合は、子供の保育園にポスターの貼付など、積極的な情報発信が見られるが、むしろ会場で意見があったように、「企業に動める大人」に対して告知して欲しい。
10	食育という言葉が多くの内容を含みすぎているので、今回のリスクコミュニケーションの話と食育の結びつきがいまひとつわかりにくかった（リスクコミュニケーションが食育の一部ではあるのだろうが...）。
11	前々より幾度かお願いもしていますが、「食品安全」の季刊誌をもっと多く印刷して頂き、直接リスクコミュニケーションの会場等に参加出来ない多くの多様な層の方々にも、読んで頂ける機会があればと思います。私自身、毎月の学習会（栄養士仲間）に少なくとも15~20部は手元にあれば...と感じています。都内六市に広がる各関連先に栄養士達が何らかの関わりを持っているので、1人から3人、3人から6人と放射状に情報が広がるのが期待出来るのですが、メチル水銀についてのDVDが提供されたのは、大変うれしい事でした。6/26に持ち寄り勉強会において、会員に観て頂くつもりであります。
12	今日の話の中で大切だと思ったキーワード「情報を読みとく力」を理解できたことは収穫でした。
13	パネルディスカッションの焦点が明確ではなく、パネラーの発言も画一的でくり返しであった。各分野の方のリスクコミュニケーションのあり方を明確にし、全体として消費者に対してのあり方をまとめていただきたかった（ちょっと残念であった）。企業の立場に何を期待するのかも聞きたかった気がした（本日出席の大きな目的であったため）。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑ではどうしても論点がずらされる気がします。 ・ディスカッションはもっと活気があった方が聞き手として楽しい。
15	会場の関係でしょうか。机がないのはとても不便です。
16	<p>マスコミはいたずらに消費者を不安にさせるような報道をしないでほしい。「売ればよい」「目をひけばよい」は控えて下さい。</p> <p>氏の話聞いて、遺伝子組み換えの表示に関して正しく理解しておらず、やはりテレビは信用できないことが確認された（自分はもともと信用していないが、一般に信じる人が多い。「テレビはうそつき」を浸透させることが「食育」だったりして!!）。</p>
17	パネルディスカッションを通して、参加者に何を伝えなかったのかが、わからなかった。意見交換の時間が短いと思った。
18	もっとパネルディスカッションを長くした方が良い。会場の質問をもっと聞く時間がほしい。
19	科学的なことをいかに一般の方に理解してもらうことがむずかしいと考えさせられた。わかりやすい説明の工夫が大事だとと思われる。特に食品安全委員会には、これを求めたい。
20	責任ある意見を出しやすくするため、お互いの顔が見えるサイズでリスクコミュニケーションを行ってほしいと思います。今回はあまり食育についての意見交換会にはならなかったと思います。食育とリスクのつながりがよくみえないためではないでしょうか。
21	食品を調理して食べるという基本的なことが抜け落ちている現代の食生活への教えとなるようなリスクが大事だと思う。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を見極める力があれば、問5などの考え方は共通と思う。 ・また専門家は日常生活と専門データを結びつけるわかりやすい資料、努力を期待する。 ・リスクコミュニケーションはいかに食育に貢献できるか - というサブタイトルがついているが、内容が一致していたのが疑問（自分なりに考えよというのであればOKと思いますが - ）。
23	ゼロリスクの考え方は説明しにくい。会場からの最初のコメントの同じ意見。
24	とても良いリスクコミュニケーションのテーマでありながら、一般の人々との意見交換が少なすぎる感があります。パネリストに選ばれた方は、皆さんそれぞれ色々な御意見をお持ちなのですが、一般の素直な生活者の代表となるかたがいらっしゃらないのが残念です（生協関係の方はコープの考えか？）。
25	食品添加物がすべて体に悪いように理解している消費者が多いので、食品添加物の安全性と有用性についての情報発信をお願いしたい。特にマスコミの論調に左右されやすいので、マスコミ関係者への教育をぜひ実施していただきたい。

26	今回のリスクコミュニケーションは消費者や食品関係者を対象にどのようにリスクコミュニケーションをとればよいかという論点で構成されていました。私は生産者団体（全農）として、どのような情報を誰に向かって発信していけば良いかといった点で、会議に参加しました。時間が短くて結論が出ませんが、参考にさせていただきます。
27	食育は地道なとり組みが必要です。すぐには効果は表れませんが、長期的にとりこんでください。今の子が親になる時に効果が表れると信じています。
28	食育の認識を再確認出来た。広範囲な取り組みが行われており、良いと思う。
29	スクリーンが低い。看板を外してスクリーンを高くすべきである。スクリーンが半分より下が見えない状況でした。
30	全体のバランスがとても良かった。意見、質問についてもきちんとして回答できたと思う。最後の頃に主婦の方々が発言されていたが、大切な機会だったと思う。このような場所で発言されるのは勇気がいったのではないか。この方々は、今日のリスクコミュニケーションをきくと生活場面で、自分の言葉で感想を伝えてくれると思う。情報伝達のギャップを埋めるコミュニケーションの機能は重要だと思った。
31	先生の講演は大変バランスの取れた講演であった。勉強になった。TVのバラエティなどももっと出演してもらいたい。
32	大変有効な勉強をさせて頂きました。
33	朝ごはんを食べるよう指導する前に、なぜ朝ごはんを食べない人がいるのか、背景等を明らかにしないと「食育」自体あまり魅力がないものを感じる。
34	行政サイドと民間企業（メーカー）のより深い連携が必要。メディアの特性をもっときき取りにして、より深いリスコミュが図れるようにしてほしい。
35	内閣府食育の推進パンフレットについて。先生からの講演は食中毒対策が一番と、食育についてお話しがありながら、パンフレットの写真は料理中ので時計をしたままの写真で「手洗いが不十分」と食品衛生の意識が低いと思います（安全について食品添加物、水銀よりも食中毒菌の対策）。
36	食育が栄養の方面にばかり向いている。食品の安全性に関する項目をもっと番号の若い（現在は 最後）ところにしてほしい。今回は 先生の話で食中毒が重要という評価を頂けてうれしく思う。会場からの質問が事前質問などもっと広くあつめて、話してほしい。
37	・インターネットを通じた情報提供をもっと重視してほしい。対象者に適したホームページの作り方、掲載方法があると思う。食品安全委員会のホームページは、更新の状況がわかりにくい。 ・「伝わらない」と嘆いているだけでなく、伝え方を工夫できる人材とも意見交換会をしてほしい。リスクコミュニケーションをどうするか、について今日は意見交換できていなかったように思う所もある。 ・「気になるメチル水銀」は、ストーリーミングにすべき。DVDよめない人もいますヨ。それもコミュニケーションデス。 ・メディアの人間に再教育の機会を与えてやって下さい。
38	とても興味深い話を聞いて勉強になりました。現代人にとって当たり前すぎてどこかおろそかになっている食について、行政も消費者も見直さなければならない時期に入ったと強く感じました。ただ、食育という言葉がどうにもあいまいで理解しにくい。もっと食育の意図や意味をもっとはっきりとした形でわかりやすく表現して頂けたらと思います。
39	リスクコミュニケーションの話が多かったが食育と関連するという点ではもの足りなかった。
40	わかりやすい話をしてありがとうございます。
41	先生のお話がとても興味深いものでした。市民、研究者、行政がそれぞれ理解していることの内容と興味にはとても大きな幅があることを感じました。それらをよく理解された上で、今後、取組に生かしてほしいと思います。
42	食品表示、キャッチコピーについてのパネリストの意見は大変参考になった。パネリストに関連省庁の担当官を入れてほしい。
43	食の安全安心で食品の安全性について大切であるが、食の確保...食料自給率の向上、食文化等を第1に考えその上で食品の安全性を考えることが必要。食生活のみだれや食の大切さが国民に欠けている！
44	氏の声が暗く、感じが悪かった。全体に早口で聞き取りにくい点があった。声の大きさに差があるので、ボリューム（音声）に気がつかなくて欲しかった。
45	・先生のお話はわかり易くとてもよくわかりました。もっと知りたいと思いました。 ・抗生物質の使用による安全性、魚肉卵等、日頃気にかけています。そのような話は、あまり聞いたことがありませんので是非この様な会でやっていただきたいと思います。 ・パネルディスカッションは、お顔がみえず台を置いて高くするなど工夫した方が良いと思います。会場が不適当かも知れませんが、誰が何を話しているのかわかりませんでした。
46	会場からの発表者、ディスカッションの様子が見にくい。リスクコミュニケーションとは、リスクを知らせて消費者に量や食材を選ばせることなのでしょうか。かなりこれは、難しいことだと思う（メチル水銀含有の魚を妊婦がどのように食べるかというDVDを見ての感想）。意見交換会は、柱をたててほしい。キーポイントをとり上げる。交換会の時間少なすぎ。
47	厚労省や農水省と共催ならば、パネリストとかに招くべきでは？上記の2)とか3)とかは厚労省がもっとリスクコミュニケーションすべき。食品安全性委員会も、もっと独自の観点から専門的な取り組みをしてほしい。企業のとり組みについてももっと積極的に活用して欲しい（企業の人間だが、販促に利用されるなどは翻意ではない）。
48	ステージの先生方の顔が全く見えない。先生方の顔が見えればもっと良く本日の講演が理解出来た様に思う。もっと参加者のこと考えてください。残念です。「牛乳から考える食文化」朝日ホールも大変良かったし、「卵を科学する」イイノホールもとても良かったです。本日は昔のラジオを聞いている様でした。パネルディスカッションの感想です。マイク悪くないですか。
49	「リスクコミュニケーション」というテーマだったが、パネリストの方の話は一方的に発信者としてのコメントだったので、意外でした。
50	・アンケートの回答の選択肢が不適切！！選べない回答肢は困る。・全体を通して「リスクコミュニケーションが食育に貢献できるか」というテーマが語られていない気がしました。テーマのしぼり方を工夫して欲しい。 ・食育の捉え方が共有化されていないので、特に後半のパネルディスカッションの進め方が、あまりよくないのではと思う。話の広がりをもとめる方向で論点を整理して欲しかったですね。本来の目的を押さえた進行をして欲しい。
51	・意見交換会のための時間をもっと割当てた方がよい。時間切れで打ち切りは残念です。・DVDによるメチル水銀の広報は少々短すぎますね。もう少しシンプルな編集がよかったかも。・これほど熱心にPublic meetingをくり返されていても、中々リスクコミュニケーションの成果が出ない。先生も申されたように、いつも同じ参加者、いつも同じ質問、いつも同じ議論、声なき声は意外と冷静かもしれませんね。海外への発信が、皆無といっている。残留農薬については、海外から何も見えない。
52	DVDの中、先生の「安心して元気な赤ちゃんを」という一言、とてもいい！こんなエトスで食育コンセプト流布の国民運動を推進して下さい。

53	氏が上手に進行されていましたが、パネラーの歯切れの悪さがあまり意見交換になっていなかった様に思える。又パネラーに生産者やメーカーなどがいなかったのが、少しものたりなかった。メディアの担当者がいたのは良かった。海外の生産者やメーカー又は政府キカンのパネラーが入るともっとハバが広がると思うが...
54	パネルディスカッションの内容は短時間にまとめるためのテーマに絞り過ぎの感があり。現状は最後の様に伝え方の方向性のベクトルを予測する話し合いのレベルで良かったのではないかと感じた。食事バランスガイドなどは理解している生活者はどれほどいるのか正直言ってわかりにくい代表。
55	メディア（特にテレビ）の食に対する断定的報道姿勢は非常に問題がある。とりわけ、これに必ず「専門家」の出ているが無責任だと思う。
56	先生の意見は全く正論だと思う。しかし、マスメディアが国民に与える影響を考えた場合に、興味本位のもは絶対止めた方がよいと思う。とにかく、消費者教育をまるでやってこなかったツゲが今回ってきている状況だと思うので、わかりやすく消費者が理解できる内容のものにしてほしい。
57	コミュニケーターの育成が重要と感じました。・相手のレベルに合わせられる。・相手のいっている意味がわかる。・おしつけない。
58	人数が多く、上映形式の内容もあったので、平面でなくホール（斜面に席のある）会場だと見やすいと思いました。パネルディスカッションは、望んでいた内容と違っていた。（メディアだけ掘り下げすぎた？）メディアの与える影響の話は、参加はあまり興味がなく、それに軌道修正された頃に時間になってしまい、残念でした。
59	食の安全がどの様な仕組みで担保されているかリスクミして欲しい（特に食添、農薬等の科学物質の安全性）。
60	先生から、マスコミに対する厳しいご意見がありましたが、学者なり行政なりが、もっと適切にメディアを利用していたければより正確な報道につながると思います。情報の発信元と受け手がともに高めあっていく関係が必要です。情報公開とは、委員会や資料をただ公開すれば良いのではなく、それがどのような意味があるのか専門家がフォローしていくことが必要です。生情報をまる投げされても必ずしも確かな判断はできません。重要な事項であれば記者を呼びつけてレクチャーするぐらいの学者の情熱も求められます。
61	DVDの感想）このDVDの企画段階で、妊婦・経産婦の意見は聞いたのでしょうか？とても良くできているのですが、惜しいのは魚食の話で終わってしまっている点。妊婦の栄養指導を後半に付け加え、「メチル水銀の話は部分なのだ」と気付かせることができるともっと良かったと考えます。なぜなら妊婦時に初産の場合、マイナス情報は「お腹の子に何かあったらどうしよう」と残りがち。メチル水銀だけでDVDを作ってしまうと、すごくリスクに感じるものでしょう？リスクミの感想）先生の「直球」の話が、小職も同感なので、こういうリスクミをどんどん開催していただきたいです。
62	最も正しい情報が伝わっていない。GMについて重点的に食育すべき。
63	「リスクコミュニケーション」と「食育」という言葉が結びつかなかった。リスクコミュニケーションについての情報をよりわかりやすく消費者に伝える努力が必要だと感じた。今回の件ではなりませんが ・HPがとてわかりにくい（字が小さい、多い、色がみにくい） ・メディアの責務を自覚していない発言が目立った。
64	身近な話題での説明であったため、聞きやすいものでした。
65	パネルディスカッションの内容で、何をテーマとして何を徴集に伝えたいのか、ポイントが不明であった。もっと明確に事前にしぼり込んで進行させた方がいいと思う。
66	世界レベルでの食糧不足の現状から、日本の食品安全の考え方、わがままな購買意識について、改善が必要である。
67	・意見交換に事前に意見を出してもらった方がいいのではないか？論点のズレた話はききたくないです。・食品安全委員会の応答はさすがです。いつもそう答えてくれればいいのにも思いました。 ・最後のさん(?)はダメですね。いい会が台なしでした。
68	食品の安全性に関する情報提供や消費者への含言は草の根的な活動が大切と感じる。末端が動きやすいような環境作りをのぞむ。
69	・食の安全についてマスメディアは正しく知識と理解を深め、一般消費者に対し正確な情報の提供に努めるようにしていただきたい。 ・マスメディアは食の安全の確保、推進に果たすべき役割を認識し、一般の方々に正確かつ迅速に情報を伝えるよう努力していただきたい。 ・マスメディアはゆめゆめ視聴率、発行部数を追いかけることなく、真心を持って一般の方々に情報提供を行ってください。
70	消費者不在の食育だと云えるだろう。ビジネスと学者のマスコミ競争に（消費者は評価が出るまで）ダメされている！！先生の云う通り誇大表示の禁止と事故の責任を明確且つ厳格にすることのみ！！（営業廃止処分）
71	とてもお金をかけた交換会だなと感じました。例えばモニターが見つらなかったのでイスの並べ方の工夫が必要かなど。DVDの子供版を作って1、2年生の「生活科」などで利用できるといいですね。
72	安全委員会の活動は評価できる。今後もリスクミを重点に頼みたい。
73	・食品安全委員会が出されたものなど、消費者として安全なものをもとめることはあたり前のことです。このあたり前のことを、次の世代につなげていくためにも、公開そしてきびしい基準を守っていけるそのようなしくみになっていくと良い。 ・「食育」と世の中はメディアを通して目にするし、生協としても政策を作ってきた。人間として生まれてきてまた生き物全て、食物連鎖による影響など考えていく勉強していきたいと思う。
74	パネルディスカッションの話の内容自体は理解できるが、全体として何をテーマの柱としてディスカッションがなされているのか分かりづらかった。少なくとも「食育」との関連性はうすい様に感じられた。
75	出来れば土、日の開催にしていきたい。月～金はlectureや他の予定が入っている為。
76	会場に蚊がいて足元だけで5～6ヶ所刺されました。次回からはもう少し衛生的な会場を選んで下さい。